

健康福祉サービス第三者評価結果 公表 共通様式

1 事業者情報

| | |
|------------|---|
| 福祉サービスの種別 | 保育 |
| 事業所名 | 菩提寺くじらこども園 |
| 代表者氏名（管理者） | 園長 立花 久美子 |
| 法人名 | 社会福祉法人くじら |
| 定員（利用人数） | 140名 |
| 施設・事業所所在地 | 滋賀県湖南市菩提寺1113番地 |
| T E L | 0748-74-1373 |
| F A X | 0748-74-1373 |
| 電子メール | bodaiji@kujira-swc.jp |
| ホームページアドレス | https://bodaiji.kujirakodomo.com/ |

2 第三者評価機関

| | |
|----------|--------------------------|
| 第三者評価機関名 | 公益社団法人 滋賀県社会福祉士会 |
| 評価実施期間 | 令和5年11月13日 令和5年11月14日 |

3 評価の概要

○ 総合評価

菩提寺くじらこども園は、法人本部である社会福祉法人くじらの理念『おもしろいことなんでもくじら級』に則って、2020年4月に幼保連携型認定こども園として開園しました。法人の理念を具現化するため園独自の「くじらの願い」として、『自分を信じる』『夢に向かって遊ぶ』『地域を愛する』を保育目標に掲げ、子どもたちの心も体も夢もくじらのように大きくなるような保育に取り組んでいます。

また、こども園の園則・運営規程の中で、全ての子どもが健やかに成長するために適切な環境を整え、子どもの最善の利益を考慮し、子どもの意思や人格を尊重した教育・保育を提供できるよう努めています。更に、家庭や地域住民、関係機関等との結び付きを大切にしたい園運営を行うことを、運営方針として明記しています。日々の教育・保育を通じて友だちや自然と関わり、のびのびと成長する子どもを育む教育・保育を提供しています。

○ 特に評価の高い点

1. 子どもの「やりたいことができる」を引き出す教育・保育

菩提寺くじらこども園では、子どもたちの主体的な「遊び」を大切に、友だちと一緒につくる楽しみ（カプラ）・行きたい時に行ける探索活動（子どもの自発的活動）・野外での散歩等の活動（保育教諭以外の大人との関り）・食育（栄養士、調理師による拘りの食材、メニューの豊富さ、調理の工夫）など、いろいろな遊びや活動を通して「やってみたい」「やってみよう」「できた！楽しい！」と子どもたちの気持ちを大切にしたい教育・保育を行っています。このような子どもの主体性を引き出す教育・保育は、法人の理念である『くじら級』の子どもたちの生きる力に繋がると考えます。

2. 園長のリーダーシップによる保育の質の向上への取組

くじらこども園では、園長の教育・保育への想いを保育教諭各自が理解して、職員全体で子どもたちと向かい合っている様子が見受けられました。また、園長＋主幹保育教諭＋リーダー保育教諭が中心となり、保育現場からの相談などを適宜聞き取り、課題解決に取り組んでいることが確認できました。職員会議においてポストイットを使い職員からの「くじらの良いところ」などの意見を収集するなど、職員にとっても意見の出し易い体制が出来ています。職員ヒアリングからも「働きやすい職場環境です」との意見が聞き取れました。

3. 社会福祉法人くじらの各事業所の自立性を尊重した運営

園長は、園の運営に関して一定の権限を持ち自主的な判断により園運営を行ってい

ます。人材不足が叫ばれている保育業界ですが、園長は派遣社員を採用するなど積極的な人材採用を行っています。人員コストを考えるより、まずは保育現場のマンパワー確保を最優先にすることで、結果として良い教育・保育に繋がっています。開設民営化3年間の子ども主体の園運営が良い結果を生んできていると思われま

す。また、園舎は古い箇所も見られますが、計画的な予算付けによる改修計画、プールや遊具、園庭の改修など工夫を重ねながら、くじらこども園として大事にすべきことをぶれずにやっている（コロナ感染の時にも各種行事を中止せず、工夫しながら継続するなど）ことも、園独自の良い取組だと考えます。

○ 改善を求められる点

1. 園としての中・長期計画の策定（収支計画も含む）

社会福祉法人くじらとしてのビジョンは明確ですが、それに基づく菩提寺くじらこども園として、今後5年～10年先の園の目指すべき方向性やビジョンを明確にする必要があります。社会福祉制度が目まぐるしく変化する時代ではありますが、園独自の中・長期計画を策定され、それを地域住民や関係機関へ周知することで、更なる地域に認められたこども園になると思われま

2. 園運営の見える化と保護者との意見交換の場を作る取組

民営化3年間の園の体制づくりを経て、今後はこども園としての教育・保育の良い取組を、保護者や地域住民へ「見える化」するための工夫と、記録・各種文書類の作成とそれを職員や保護者へしっかり伝え共有できる体制づくりが必要です。また、アプリなどのICTを活用して保護者へ情報を発信していますが、保護者の意見や相談をより把握できるよう、意見箱の設置やお便りの工夫、事故・ヒヤリハット、事業計画等の周知、保護者の負担を減らした保護者会の開催など、改善に向けて取り組むことを期待しま

3. 災害・防犯・安全に対する取組について

園は独自の「非常災害対策計画」や「土砂災害に関する避難確保計画」を策定して非常時の対応策を準備しています。今回の保護者アンケートのコメント欄にも、豪雨時の土砂災害や不審者対応、登降園時の駐車場の事故の危険性などを心配しているコメントが複数見受けられました。園として整備している非常災害対策だけでなく、社会資源の豊富な湖南エリアのメリットを活かした地域連携が必要です。近隣の小学校や福祉関係施設との連携、地域住民を巻き込んだ避難訓練の実施、保護者との地域防災対策の話合いなど、積極的に災害や安全に対する備えに取り組むことが重要で

4 第三者評価結果に対する事業者のコメント

今回、第三者評価を受審したことで、自園の強み、弱みが明確化し、今後の方向性に見通しが持てた。運営に関して、現場職員の理解を進めることや、保護者が意見を届けやすくなる仕組みづくり、そして、園独自の中長期的プラン策定及び、地域住民・関係機関への周知等を計画性をもって取り組んでいきたい。